

令和6年度

事業計画書

Project report



学校法人 高田学苑

Takada Gakuen

Contents

法人の概要	...	2
建学の精神		
教育方針		
設置する学校		

令和 6 年度の主要な事業計画

高田短期大学	...	3～8
1. 中・長期目標		
2. 令和6年度重点目標		
3. 教育・研究活動		
4. 地域社会貢献事業・公開講座など		
仏教教育研究センター		
育児文化研究センター		
介護福祉研究センター		

高田中・高等学校	...	9～13
1. 命の尊さを考える教育推進事業		
2. きめ細やかな学習指導推進事業		
3. キャリア教育推進事業		
4. 生徒会活動の推進		
5. 部活動の推進事業		
6. 危機管理・安全教育への取り組みの推進事業		
7. 国際理解教育推進事業		
8. 教職員海外研修推進事業		
9. 学校自己評価、自己点検推進、学校関係者評価委員会事業		
10. 教職員資質向上への取り組み事業		
11. 生徒募集推進事業		
12. その他		

法人の概要

建学の精神

本学苑は仏教精神を基として宗教的情操を培い、人間性豊かな社会人を育成することを建学の精神としている。



教育方針

短期大学

本学では「教育基本法」ならびに「学校教育法」にのっとり、本学の建学の精神・教育の理念に基づいて、少子化・子育て困難、超高齢化、そしてIT化が進行する現代社会からの要請にこたえ、高度な専門知識や技術・技能を身につけて「やわらか心」で地域社会に貢献できる保育者、介護福祉士、オフィスワーカーを育成することを教育目標としている。

中・高等学校

真宗高田派の宗門立学校として、言行忠信・表裏相応を校訓とし、仏教教育による人間味の豊かさを深め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会に貢献できる人材の養成をめざした教育を行っている。また、中学校・高等学校一貫六年制コースを設置し、高い水準の学力と知的な生徒を育成している。

設置する学校

- ◆ 高田短期大学 三重県津市一身田豊野195
- ◆ 高田高等学校 三重県津市一身田町2843
- ◆ 高田中学校 三重県津市一身田町2843

高田短期大学

1. 中・長期目標（令和5年度～令和9年度）

1. 建学の精神具現化・実践とその涵養
 - 共通教養科目「人生と仏教」で客観的知識を学修し、仏教行事を通じて主体的に理解を深める。また、学内の宗教的情操教育の環境を整えていく。
2. 学生募集と大学運営
 - 各学科募集定員の充足と確保
 - 少子化と四年制大学進学志向による短期大学離れの傾向に伴う受験生の激減に対する戦略
 - 魅力と活気のある大学運営とその可視化と発信
 - 教員の研究による資質向上と学生の学力三要素による資質向上
 - 子ども学科・キャリア育成学科オフィスワークコースにおける公務員合格者の増加
 - キャリア育成学科介護福祉コースにおける介護福祉士の合格者の増加
 - 外国人留学生の日本語能力試験N2の合格者の増加
 - 高大教育交流の推進
3. 時代・社会の変化に即応した教育システムの改革・改善
 - 教育の理念・目的・目標等の不断の見直し・検討
 - 「三つのポリシー」の不断の見直し・検討とそれに基づく教育の実施
 - 学修成果の具体的な把握・評価方法、より効果的な公示方法等の検討
 - IRの推進
 - 学修環境の不断の改善
4. エンrollment・マネジメントの促進（総合的な学生支援体制の構築）と教職員の意識改革
 - 学生支援に視座をおき、教員と職員が協力し合い（教職協働）、切磋琢磨し合う教育環境の構築
 - 縦割りに終始しがちな各部署の業務に横のつながりをもたせ、各部署の情報を共有しやすくする、学生の立場に立ったトータルなサービスの遂行
5. ニーズに対応し、各学科・コースの特色を反映した実践的、体験的な地域連携の充実
6. 自然保育とSDGsに向けての周辺環境（山林）の有効活用

2. 令和6年度重点目標

1. 学生募集のあり方の検討と募集定員の確保
 - 学生募集戦略の不断の検討
 - 地域の高等学校との連携強化
2. 「教学マネジメント指針」（令和2年1月22日 中央教育審議会大学分科会）を参考にした教学マネジメントの推進
 - 「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」に基づく教育の実施
 - ・ 「シラバス」と「カリキュラム・マップ」に基づく授業の展開
 - ・ 「DP到達度評価ルーブリック」による学生の自己評価とIRの実施
 - 「アセスメント・ポリシー」の着実な遂行

- ICTを活用した教育の推進（「AAA」の積極的利用）
 - ・「アクティブラーニング型授業」の推進
 - ・学修成果の可視化（ループリック・学修ポートフォリオ等）と学生への提示の推進
- 3. 全教職員一丸となつてのきめ細かな学生支援の充実
 - 学修及び短大生活の支援
 - 障害のある学生など、特別な支援を要する学生への全学的な支援体制の確立
 - キャリア支援（就職支援）
 - ・就労意欲の喚起と多様化する学生への支援
 - ・公務員試験対策の充実
 - 外国人留学生への支援
 - ・日本語能力試験対策の充実
- 4. 周辺の森林活用の安全な遂行と自然保育の充実
- 5. 地域連携プロジェクトの推進
- 6. 介護福祉士国家試験合格に向けての学習に取り組める環境の整備

3. 教育・研究活動

（1）学士力向上を目指した改善活動（学務委員会、教務課）

学士課程で身に付けるべき学修成果（「学士力」）の達成を目指します。

学生が主体的・自律的に「ディプロマ・ポリシー」に定めた「到達目標（学修成果）」に到達できるよう、履修マップ・科目ナンバリングの活用等により授業の質的向上を図るとともに、学生自らが学修成果を自己点検・評価する取組が可能となる「高等教育における内部質保証システム」の確立を推進します。

また、令和5年度より運用を開始した学修支援システム「Active Academy Advance」に、より能動的な学修支援ツールとなるよう改善を加え、学修力の向上と円滑な学事運営を目指します。

（2）主体性・協調性を育む短大生活支援（学務委員会、学生課等事務局）

高短生としての2年間で心身ともに健やかなキャンパスライフとなるよう、全教職員が一丸となり、多方面からの支援を行う取り組みを進めます。明るい挨拶や礼儀・マナーを大切にする中で、学生間や学生と教職員との適切な人間関係の構築を目指します。

また、コロナ禍で縮小した学生の自主的かつ主体的な活動をより強力でバックアップし、学生自治会を中心として、学内行事及びクラブ・サークル活動の更なる活発化に努めるとともに、部員と顧問間のコミュニケーションがより一層深まるよう支援します。

さらに、外国人留学生が卒業後、地域社会で活躍できるよう日本語能力の向上をはじめ、様々な知識経験の修得ができるよう外国人留学生支援室を中心として支援の充実を図ります。

（3）キャリア教育の充実（キャリア支援委員会、キャリア支援センター）

教職協働をより一層進め、学生一人ひとりに応じたきめ細かなキャリア支援に努めます。そのために、キャリア支援委員会での協議や委員会に向けての学科別・コース別事前ミーティング、就職支援情報ツールの活用により、教職員間の情報共有と意思疎通を図ります。

また、就職活動の早期化や公務員試験の早期実施に対応するため、勤労意欲の喚起と計画的な支援を進めます。そのため、「就職講座」、「キャリアスタディ」、「キャリアガイダンス」、「公務

員講座」等の取組を見直すほか、公務員希望者対象のガイダンスを充実させるなど、継続的に工夫・改善を図ります。

さらに、多様化する学生に対して、学生支援委員会や学生相談室と協力し、保護者^{*}や外部関係機関等との連携も視野に入れて、適切な支援に努めます。委託訓練生に対しては、多様なライフステージに対応した就職先の情報収集に努め、適切に相談に応じられるよう支援に努めます。

^{*}成人に達したのちにおいても、保証人の立場にある方を便宜上「保護者」と称します。

(4) 学生募集と高大接続の推進（入試広報委員会、入試広報課）

学生募集に関しては、各学科の定員確保を最優先課題として取り組みます。そのため、高校生や保護者が求める情報を的確に把握し、SNSを始めとする適切な媒体により時宜を得た発信を行います。また、高校生が早期から志望校を絞り込む傾向にあることから、早期に高校生と直接面談できるよう、業者主催のガイダンスや特別（体験・模擬）授業、その他見学会などの機会を極力増やしていきます。オープンキャンパスについても、高校生や保護者の視点に立った、学生を主体としたものにするなど、内容の充実を図ります。

高大教育交流事業については、連携協定校に、進路ガイダンスだけでなく様々な学びについて提案や連携、協力をしていきます。また、高校訪問についても、進路指導部だけでなく専門学科や学年との連携を密にして積極的に情報交流を図ります。

4. 地域社会貢献事業・公開講座など

仏教教育研究センター

仏教教育研究センターの令和6年度事業は、公開講座「高田本山寄附講座」として平成24年度から開講した仏教基礎講座と平成25年度から開講した仏教専門講座、そして研究会および寄贈図書の整理などを継続して開催します。

(1) 公開講座の開催

本年度は、真宗高田派教学院の研究員である中村宜成氏と当センター研究員である藤田正知氏が講師を務め、真宗高田派本山高田会館ホールにおいて年2回、前期後期に分けて仏教教育研究センター公開講座を次のとおり計画しています。

○第1回（前期）

日 時：未 定

講 師：中村 宜成 氏（真宗高田派教学院研究員、真宗高田派光輪寺住職）

テーマ：未 定

内 容：未 定

会 場：真宗高田派本山高田会館ホール

○第2回（後期）

日 時：未 定

講 師：藤田 正知 氏（当センター研究員、高田中・高等学校教諭）

テーマ：未 定

内 容：未 定

会 場：真宗高田派本山高田会館ホール

(2) 高田本山寄附講座の開催

○仏教基礎講座 8月19日(月)～23日(金)

仏教学	栗原 廣海	研究員	(高田短期大学名誉教授)
真宗学	松山 智道	研究員	(高田短期大学特任講師)
仏教史	金信 昌樹	研究員	(真宗高田派善昌寺住職)
真宗史	清水谷正尊	研究員	(高田短期大学学長)
高田の歴史と法宝物	梅林 久高	研究員	(高田学苑学苑長)

○仏教専門講座 4月26日(金)

仏教学概説	栗原 廣海	研究員	(高田短期大学名誉教授)
仏教学講読Ⅰ	清水谷正尊	研究員	(高田短期大学学長)
真宗学講読Ⅰ	金信 昌樹	研究員	(真宗高田派善昌寺住職)
真宗学講読Ⅲ	佐波 真	研究員	(高田中・高等学校非常勤講師)
高田の宗風	島 義恵	研究員	(真宗高田派聖洞寺住職)

(3) 研究会の開催

研究テーマ：未定

当研究会(基本的に月一回の開催)では『顕正流義鈔』の研究を20年以上続けてきましたが、昨年の12月にその研究の集大成として『影印 翻刻 現代語訳 顕正流義鈔』を出版することができました。本年1月の研究会より、次に取り組むテーマを検討中であります。

育児文化研究センター

行政や地域子育て支援団体など関係機関との連携による、子育て支援活動の充実および育児文化に関する研究活動の充実と発信に努めます。また、学生の資質向上のための支援を行います。

(1) 研究活動

○「育児文化研究紀要 第20号」 令和7年3月発行予定

○定例研究会(年3回)

第67回 5月15日(水) 開催予定

第68回 9月2日(月) 開催予定

第69回 12月10日(火) 開催予定

○グループ研究会活動 各グループ年間6～8回 開催予定

グループ① 子育て支援について

グループ② おやこひろばたかたんにおける学生の学びについて

グループ③ 自然保育とこれからの保育者育成

グループ④ 乳幼児親子の生活と支援

(2) 地域子育て支援事業

○地域開放事業 子育て支援ひろば「おやこひろば たかたん」の実施

毎週月曜日・第1第3木曜日 10:00～12:00 年間70日程度 開催予定

○子育て講座(予約制)の実施

ひろば開催日に月1回 年間9回 開催予定

- 子育て相談（予約制）の実施
「発達」の専門教員により月2回 開催予定
- 子育て情報の発信
情報誌きらきら（隔月発刊）への子育て情報掲載など
- ひろば関係研修会 年2回（8月・1月） 開催予定

（3）地域連携子育て支援事業

- 津市委託事業「子育てファミリーのホッとひろば事業」企画・運営実施 年4回 開催予定
- みえ次世代育成応援ネットワーク事業への運営委員参画・事業参加
ありがとうの一行詩コンクール 等
- みえこどもの城連携協定による事業
学生による子ども・親子向けイベント
「みんなあつまれ たかたん あそびひろば」の企画・運営支援 12月 開催予定
- 地域連携自然保育推進事業

（4）学生支援事業

- 子育て広場応援サークル「たんたんクラブ」の活動支援

（5）会議

- 運営委員会 学内運営委員会は月1回 開催予定
- センター会議（年2回） 前期 5月15日（水）
後期 12月10日（火） 開催予定
- ひろば運営会議 月1回 開催予定

介護福祉研究センター

介護福祉、高齢者問題、障害者問題等に関する研究を行うとともに、地域社会への貢献、連携をめざし、地域福祉に寄与するために令和6年度は以下の事業を計画しています。

（1）介護福祉セミナーの開催

- 地域の方や卒業生を対象とした講座を予定
日 時：11月～12月の土日いずれか1日 13：30～15：30
テーマ：未定
講 師：東海林 藍(本学教員)

（2）介護職員キャリアアップ講座の開催

- 介護職員を対象とした講座の開催
会場は地域の福祉施設とし、施設の介護職員に参加を呼びかけます。

（3）定例研究会の開催（場所：高田短期大学 介護福祉研究センター）

- 第55回定例研究会 6月開催予定
- 第56回定例研究会 9月開催予定
- 第57回定例研究会 令和7年2月開催予定

(4) 地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動

- 白子公民館との連携事業
- 一身田桜町地区との連携事業 他

(5) 施設との交流事業

- 報徳園等との交流を実施予定
高田短期大学介護福祉コース学生ボランティアを中心に行います。

(6) センターボランティア学生組織「ふれんどえいむ」の連携強化

- 介護福祉コースの学生に呼びかけ、本センターの事業等にボランティアとして協力しやすい環境を整えます。

(7) 研究紀要の刊行

- 高田短期大学「介護・福祉研究」第11号を令和7年3月に発刊予定

(8) 他団体との連携

- 全国障害者問題研究会との連携
- 三重県文化会館との連携

(9) 会議

- 運営委員会 場所：本学介護福祉研究センター 月1回開催
- センター会議 場所：本学介護福祉研究センター 年2回（前期6月、後期12月）

高田中・高等学校

1、命の尊さ考える教育推進事業

仏教教育に基づく宗教的情操の涵養をめざし、週1時間の仏教の授業や月々の本山参詣、仏教講話などを実施することにより、豊かな人格形成と心の成長をうながし、生徒ひとり一人に命の尊さを自覚させるよう努めてまいります。

2、きめ細やかな学習指導推進事業

昨年度、高等学校1年生より新学習指導要領が年次実施で開始となりました。国語においては、「国語総合」が「現代の国語」「言語文化」に再編され、英語においては英語4技能の1つ「話す」が、「話す（やり取り）」「話す（発表）」に細分化され、4技能5領域を強化する内容に変更になりました。数学では「数学C」が、また社会では地歴科の「地理総合」「歴史総合」、公民科の「公共」が、情報科では「情報」が必履修科目として新設されました。2025年度の大学入試科目には「情報」が追加されます。

これに対応した授業を展開するため、教科毎及び教科を横断した形で授業内容を検討・改善し、学習指導の充実をはかっております。個々の生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現と学力の3要素（「知識及び技能」・「思考力、判断力、表現力等」・「学びに向かう力、人間性等」）の実現に向けて、各教科・科目で「何ができるようになるか（どのような資質・能力を育成するか）」を再整理し、きめ細やかな個別指導や反復学習などを行い、中学段階と高校1年生での基礎学力の定着と学習習慣の確立を目指した学習指導を展開します。

また、「総合的な探究の時間」では、自分の在り方や生き方を考えながら、課題を見つけて解決する能力を身に着けます。学習した各教科の知識や情報活用能力、言語力を活用する授業となるよう、グループワークやプレゼンテーションを利用した発表を行い、アウトプットする能力まで高めていきます。

さらに、大学入試共通テストの検討・分析を行うとともに、カリキュラム・マネジメントおよびカリキュラム開発を重ね、よりきめ細やかな学習指導の拡充に向けた研究活動を行います。

3年コースの特選、I類・II類各進学クラスではそれぞれの教育目標に合わせた特色ある指導のもと、生徒が自己の将来を見据え、その目標に向け研鑽を重ねること、社会貢献を目指し、協調性と奉仕の精神を併せ持つこと、深い思考に基づいた自己表現ができることを主眼に基礎学習から発展的学習へと進めて行きます。また、6年コースにおいては、中学1・2年次は基礎学力の定着、3・4年次はキャリア教育の推進、5・6年次は大学入試に向けた進学指導を目標に6年間の継続指導を行ってまいります。

個々の学力到達度に応じた指導や学習習慣の徹底をはかるとともに、学習への興味関心を引き出し、学力の伸長を目指します。

教育支援の観点からも、精神的・内面的、社会的支援でも細やかな指導を行ってまいります。担任や学年を単位とした面談や教科担当者会議、アンケート調査、さらにカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの同席による教育支援委員会での意見交換などで情報を共有するとともに、家庭との連携を密にして生徒支援に努めます。

3、ICT教育とアクティブラーニング対策の推進

今年度は、高等学校3年制では全学年、6年制では中学1年生から高校4年生までが学校から貸与されたiPadを個々で所持し、学校内外で活用します。これにより小学校または中学校ま

で生徒が受けてきたICT教育をシームレスに継続させることが可能となります。また、新たに成績処理から出欠管理、アンケート機能や学習履歴の蓄積までを行うことができる校務支援システム「BLEND」を導入することにより、生徒の学習指導をより一層深化させることが期待できます。

Classiについては、「BLEND」と機能が重複するため、昨年度末で契約を終了しましたが、Classiノートと同じ機能を持つ「スクールタクト」を教材として導入することにより、昨年度までClassiノートを活用してきた生徒および教職員については、昨年同様の学習支援システムを利用することが可能になっています。

さらに今年度から、全常勤教員に学校からiPadを貸与し、教室におけるICT機器の活用もより行いやすくしています。また、教員が生徒と同じデバイスを持つことで、アクティブラーニング実施時において素早い対応が可能となり、探究授業も含めて今まで以上にアクティブラーニングが実施されることが期待されます。

4、キャリア教育推進事業

現代社会の多様性に即応すべく、コミュニケーション能力や自己発信能力など社会人として働くうえで必要とされる能力の修得に努めるとともに、デジタル技術の革新による社会の激しい変化に対応し、生き抜くために主体的に自己の進路選択ができるように教育活動を展開していきます。

昨年5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、昨年度は夏季休暇中より各種のキャリア研修を復活させてきましたが、今年度はそれをさらに発展させ、ICTを活用した新たな取り組みを行う予定です。生徒それぞれの内面の成長・発達を促し、漠然と抱えている夢や希望を明確にして将来の人生プランへと繋がるように、学ぶことや働くことへの意欲や目的意識を醸成し、将来社会人としての自己の適正・能力をよりよく生かしていく基盤を構築すべく、多種、多面的な事業の推進・発展をはかります。

5、部活動・生徒会活動の推進

生徒会活動は、昨年新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、本年度はより積極的に活動できると思います。中高とも生徒会が中心となって、学校の諸行事の企画を計画から実行へと展開することを通して、各生徒との連携を深め、友情の輪を広げるとともに、ひとり一人の自主性・公共性・協調性を高めることを目標に、活気ある学校づくりを目指していきます。高校の生徒会内に執行部の外に企画運営委員会、生活委員会、環境委員会、安全推進委員会を設置し、生徒の主体的な活動を展開しています。また、いじめ反対の意思表示をするピンクシャツ運動も生徒会主体で行っています。

クラブ活動において、令和5年度は新型コロナウイルスの感染は完全に収束しているわけではありませんでしたが、地区大会等の予選会から大会は予定通り行われました。令和6年度はより活動的に行えるものと思われまます。

学校としては教育活動の一環として、できる限りバックアップする必要があると考えています。クラブ活動は生徒ひとり一人の興味や関心によって自由意志で参加し、心身の健康増進や豊かな教養を養い、自主的な集団生活を行うことを目的としています。また、自身の体の育成、高い技術を習得することを目指し継続的にクラブ活動を行うことは、人間形成にも大きな影響を与え、より楽しく豊かな学校生活を送ることができるものと考えられます。

施設の整備や、備品の補充など、また本年度より外部指導員の拡充をはかり、満足感ある活動

の中で技術向上を促し、先ずは高田中・高等学校の名を全国に広められるよう努めてまいります。

また、優秀な成績を収めたクラブ活動においては学校内外に公表し文武両立を目指す幅広い学校活動を示していきたいと思っております。文化系、運動系それぞれの部活動で優秀な生徒の育成をめざしていきます。

6、危機管理・安全教育への取り組みの推進事業

自然災害の発生に対しての危機意識と防災意識を高め、地震等の自然災害に対して、まず自己の命を守り、次に身近な人を助け、さらには地域に貢献できる防災教育に取り組んでいきます。

年度当初には津波対応、秋に緊急地震速報対応の避難訓練を行うほか、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりましたが、地域住民や消防署等と協力し一体となった避難訓練も例年実施しています。このほか、防災用の備蓄品として、障がい者施設が携わっている「白い小箱」を入学時に購入し、卒業時には「白い小箱運動」に賛同を得て他の事業所や海外にこれを寄贈しています。

また、SNS等によるトラブルは例年わずかながら発生しています。ソーシャルメディアの発達とその使用、利便性により凶悪なサイバー犯罪に巻き込まれないように生徒のみならず保護者に対しても常日頃から安全教育への意識を高めるとともに、犯罪防止の徹底に努めたいと思っております。SNSやLINEでのトラブルの発生を未然に防ぐため、その利用について講習会・講演会を開くとともに、携帯電話ではフィルタリングの徹底をはかることを推進しています。

さらに、交通安全については、自転車通学生に対して、交通事故から身を守るためのルールを身につける教育と専門家による体験型教育を実施するなど、安全の必要性を訴えていくほか、昨年度から他校ではあまり行っていないヘルメット着用推進の教育も引続きJAFの協力のもと行っていきます。また、万一のために保険に加入することも強く奨めています。

7、国際理解教育推進事業

3年間中止してきた海外研修プログラムを昨年度再開し、国際理解教育をさらに推し進めるため今年度新たにターム留学プログラムを取り入れます。このプログラムは9週間にわたりニュージーランドの学校に正規留学生として在籍し、現地校の授業を受けるもので、語学力向上だけでなく、問題解決能力やコンピテンシーを育みグローバル社会への対応力を培うと共に、帰国後に学年のリーダー的存在として学校全体を活性化していく人材の養成を目的とします。

昨年度姉妹校提携30周年を迎えたオーストラリアのセントモニカ校・パレード校とのオーストラリア交換留学、および例年7月に実施している生徒の学力強化に向けたイギリス語学研修などの短期留学プログラムも、生徒の国際理解と国際協力への意識を高めるため引き続き実施をします。また、現地での研修の他に、姉妹校であるオーストラリア・セントモニカ校とのオンライン交流会や日本の大学・大学院に通う留学生を招いて種々のテーマでディスカッションやプレゼンテーションを行うグローバル・スタディ・プログラム（旧エンパワーメント・プログラム）を校内で実施し、英語の語学力や英語での発表力を強化する取り組みも積極的に行います。

さらに、スタディ・サブリEnglish等を利用した基本的な英語力、英会話力の強化に努めるとともに、イングリッシュキャンプ、イングリッシュフェスティバルの開催、各種コンテスト・コンクールへの参加、教科横断型の授業、Web学習サービス、オンライン留学システムの活用など、様々な角度から国際理解教育を推進していきます。また、海外からの短期あるいは長期留学生の受け入れも積極的に行っていきたいと考えています。

8、教職員海外研修推進事業

新型コロナウイルス感染症対応として、4年間実施を見合わせてきた教職員海外研修も再開を果たしたいと考えています。教員のスキル向上と、教職員の国際感覚を深めること・世界情勢を肌身で感じる機会である海外派遣は不可欠であり、今後は年齢にとらわれず、積極的に自己研鑽を重ねようとする意欲ある教員に研修の機会を与えることも検討の必要があると考えます。

9、学校自己評価、自己点検推進、学校関係者評価委員会事業

2学期に生徒を対象とした「授業アンケート」を、3学期には教員を対象とした「学校自己評価」を学校評価と自己評価の2種類に分け実施することを毎年計画しています。「授業アンケート」は各教科毎に生徒が授業をどう捉えているかを見ることができ、教科指導の改善やカリキュラム・マネジメントに役立てることが目的です。また、「学校自己評価」は教員自らが学校及び自己を評価し、学校全体としての現状を把握するとともに自己の研鑽に役立てていきます。

また、学校関係者評価委員による外部評価を実施し、その結果を真摯に受け止め、健全な学校づくりに努めていきます。

より良い学校作りに向けて教員や学校が絶えず振り返りを続けていくことは、生徒や保護者のみならず、地域社会の信頼のもとに築かれる私学であるために特に重要であると捉えています。

10、教職員資質向上への取り組み事業

新任教職員に対して、いろいろな分野から10項目に分けて校内新任研修を行い、その中で建学の精神を学びそれを実践していくことや、学則や学苑規程を理解することで、教員との交流により一日でも早く自立活動ができるよう資質向上に努めています。また、学校の危機管理の在り方や教務業務の把握等を理解することで学校の全体像を把握し、新任の教職員が生活指導や教科指導に役立てるよう積極的な取り組みに努めていきます。さらに、各種校内研修や校外研修に積極的に参加を促し、教職員それぞれが研鑽を積み自己の資質向上に励むことができるような環境作りに努めていきます。

11、生徒募集推進事業

少子化や私立高校の就学支援金の所得制限が改善されないことから、生徒募集と私学運営は厳しい状況下にあり、いかに受験生やその保護者の方から安心と信頼を得て選ばれる学校にしていくかが重要です。高校入試では各中学校訪問や学校説明会など、中学入試では塾訪問や説明会を通して本校の魅力を紹介した生徒募集活動に取り組みます。

卒業時の生徒の充足感や進路実績が生徒募集や学校の魅力にも大きく影響を与えるので、その成果を上げるために、日々各人が自主的に学習意欲を向上させ、生き生きとした学校生活を過ごすことができる環境作りをめざしています。

インターネット等のメディアを活用し学校紹介を行うなど外部への情報提供を積極的に展開し、受験生に対し、在校生が伸び伸びと学業、部活動などに精進、活躍している姿を可視化する広報活動を展開していきたいと思えます。

また、本校に興味のある生徒が直接来校できる高校での学校見学会、個別見学会、中学校での学びの広場などのイベントもより一層の充実をはかっていきたいと思えます。夏季休業中に、小・中学生対象に実用英語技能検定対策講座を行うことも具体的に検討しています。

12. その他

令和6年度 施設設備整備計画

(単位:円)

事業名	事業規模	事業費	実施時期
グラウンド整備	東西グラウンド	4,000,000	令和6年度中
校舎清掃	全校舎	3,500,000	令和6年度中
ビル総合管理契約	全校舎	2,300,000	令和6年度中
ガス空調機保守点検		2,000,000	令和6年度中
樹木剪定		2,200,000	令和6年度中
グラウンド排水路土砂撤去	東西グラウンド	2,200,000	令和6年度中
ガス空調機フィルター清掃		1,000,000	令和6年度中
1号館浄化槽曝気送風機修繕		1,177,000	令和6年度中
教職員駐車場出入口修繕工事		1,188,000	令和6年度中
西グラウンド調整ポンプ 及び制御盤取替工事		2,750,000	令和6年度中
合 計		22,315,000	